
クリスマスのお話《替え歌》

由宇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスマスのお話《替え歌》

【Nコード】

N1675B

【作者名】

由宇

【あらすじ】

クリスマスのお話。香は一弥にすることをいいだした。それは一弥の得意分野だった……。

12月24日――

水滴がついた、広い窓の外側には雪がちらつき、街灯がぼんやりと幻想的に輝いている。

外とはまったく反対のここの暖かい部屋に、一定の距離を保った、男女が座っていた。

短い髪、そして切れ長の目が印象的な一弥は、机の椅子に座りながら、自分のギターを触っていた。

ちらちらと、自分のベッドに寝転ぶ子を気にしている。

黒髪を二つに結び、中学3年とは思えないくらいの子供顔の香は、一弥のベッドで漫画を読んでいる。今、部屋に入ってきたばかりなのか、白い頬が林檎のように真っ赤に染まっている。

「香……？」

「ん」

すっかり漫画に夢中になっている香の気のない返事。

せっかく、2人の16ヵ月記念がクリスマスだっていうのに、香はいつもクリスマスとなるとそっけない。

『私は仏教だから、あんまり関係ないでしょ』
と何度聞かされたことか。

「俺、下からお菓子とってくる」

そういうと、香は目だけをこっちに向けた。

「うん、ありがとう」

その香の言葉を聞いて、一弥はギターから手を離して、扉をあけて廊下に出る。

ひんやり冷たいフローリングと階段をかけおり、リビングに準備しておいたチョコレートの山がのった箱をつかみ、また階段を昇る。足でドアをあけると、もわっと暖かい空気が顔にかかった。

「ほら、チヨコレート」

一弥がチヨコレートの山をベッドに放り投げた。

香は漫画を閉じ、枕元におくと、小さく息を吐いた。

「か、一弥」

香は震えた声で一弥を呼んだ。

「何？ チヨコレート好きでしょ？」

「うん、だけどね……」

そういうと、香は何かを決意したようにうなずき、微かに笑った。

「真っ赤な頬つぺたの、香ちゃんは、いつもみんなのわーらーいーもの。でもその年のクリスマスの日、一弥のお兄さんがいーいーましたー！」

そういうと香は一弥にむかって手をのばした。

「……は？」

「続きは？ 一弥お兄さんは可愛そうな香になんていった？」

何でもかんでも唐突な香にはいつも驚かされているが、まさか歌までくるとは。

相変わらず香は一弥にむかって手をのばしつづけている。

ただ……

（作詞が得意な俺に替え歌を振ったな？ よし……）

「可愛い君のその頬に、思わずキスをしたくなるのさ！」

そういった一弥を、香はしばらく見つめていたが、やがて大きく目を見開き、頬だけじゃなく、顔や耳まで真っ赤にさせ、勢い良くうつむいた。

「ばっ……ばかじゃん！ なんで歌うの！」

「ちよつとおまえ、矛盾してるんだけど！」

「だからクリスマスは嫌いだっ、私は仏教だ！」

「しらねえよ」

ちらちらと雪は降り続けている。

そして町の木には、輝くイルミネーションが施され、その下をさま

さまざまな人が行き来している。

これはあるひとつのクリスマスの物語。

みなさんのクリスマス、素敵な1日になりますように。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1675b/>

クリスマスのお話《替え歌》

2010年10月15日21時58分発行